

# 大公開 海女の コスチューム

昔ながらの道具と衣装で皆さんをお待ちしています

## 1 水中眼鏡

昔は松島めがねと呼ばれるレンズが二つあるタイプも使用されていました。

## 2 ヤツカリ

腰に下げて潜り、浜にあがるまで獲ったウニなどを入れておく腰網です。

## 3 足袋とわらぞうり

ゴツゴツした岩やむき出しの貝から足を守ります。

## 4 ソエ(磯)カギ

ウニ用やアワビ用など獲物によって形もさまざま。

## 5 かすりの着物とショートパンツ

実演のときはかすりの着物にショートパンツで、漁に出るときは、ウェットスーツを着用します。

## ウニ

久慈市周辺で夏が旬のウニといえばキタムラサキウニ。極上のコンブを主食にしているため、甘みとうま味にあふれた味わいです。生はもちろんな、塩ウニ、焼きウニも最高の味わいです。



(左)ソエ(磯)カギ (右)ヤツカリ



水中眼鏡



かすりの着物

## アクセスマップ ACCESS MAP

### 久慈までの所要時間

東京駅	2時間26分	盛岡駅	東北新幹線 44分	二戸駅	1時間10分	久慈駅	1時間26分
仙台駅	1時間30分	秋田駅	1時間30分	八戸駅	1時間47分		
宮古駅	1時間30分	新函館北斗駅	1時間27分				

※久慈駅~小袖海女センターまで:車で約25分  
(小袖海岸の看板が目印です)



## (一社)久慈市観光物産協会

観光に関する  
お問い合わせ

〒028-0056 久慈市中町 2丁目 5番6  
TEL 0194-66-9200 FAX 0194-66-9300  
URL <http://kuji-kankou.com/>

## 久慈市産業経済部観光交流課

〒028-8030 久慈市川崎町1-1 TEL.0194-52-2111 FAX.0194-75-3536

# 北限の海女

昔からの教えを守り三陸の海の幸を  
自らの手で獲る女性達がいきました。

ほくげんのあま

# 北限

の海女

総延長180kmにも及ぶ陸中海岸。  
 「北限の海女」は、その北部、久慈市の小袖海岸で  
 (三陸ジオパークのジオサイト)  
 活躍する海女たちの総称です。  
 沖合は世界三大漁場の一つに数えられる漁場であり、  
 サケをはじめ、マグロ、カツオ、サンマ、  
 サバ、イカなどが多数水揚げされています。  
 さらに、良質な海藻が育つ磯(岩礁地帯)は、ウニ、アワビなど  
 高級食材の宝庫になっていて、海女たちの  
 格好の漁場になっています。  
 伝統の漁法を今に伝える「北限の海女」は、  
 今また全国から注目を集めています。



## 海女の誕生

海女のはじまりは明治初頭といわれています。遠洋漁業が発展する中で、男たちが何日も家を空けるようになると、女性たちも畑仕事の合間に海に出てアワビやワカメ、コンブを採り、換金するようになりました。子供たちも一緒に採るようになり、自然と潜水の技術を身につけて海女になっていきました。当時は「海女」の名はまだなく、「かつぎ」と呼ばれていました。



## 「北限の海女」の名付け親

久慈市の海女が有名になったのは昭和34年(1959)に放送のラジオドラマ「北限の海女」がきっかけでした。脚本家の故水木洋子さんは、「ひめゆりの塔」、「裸の大将」、「浮雲」など、数々の名作を生み出した方で、都会の女性と小袖の海女の出会いと生き方を描いたもので、当時の生活や地域の様子が描かれていました。

## ひと息でウニ10個も!

素潜りの海女にとって、やっかいなのが海水温。三陸の海は親潮の影響で冷たく、漁が終わる頃には体が冷え切ってしまいます。それだけに、素早い潜水が重要で、上手な人はひとかきで2mあまりも進み、獲物の多い10m以上の好ポイントまで一気に潜水します。そして10個ほどのウニを採りヤツカリ(ウニ入れ腰網)に入れて浮上してきます。ただ、海藻が体からみ付いて身動きがとれなくなったり、ヤツカリが岩場に引っかかったりと危険も背中合わせの漁なのです。



# 「北限の海女」と出逢うには



●素潜り実演 7~9月(土日祝日)  
 ①10:20~ ②11:20~ ③14:20~  
 見学料..... 500円

●営業時間 9:00~17:00  
 ●問い合わせ ☎0194(54)2261  
 (小袖海女センター)



毎年8月第1日曜日に開催  
**北限の海女フェスティバル**  
 北限の海女と地域が一体となって繰り広げられる一大フェスティバルです。海女のウニ素潜り実演のほか、ウニ採り名人戦、郷土芸能披露など、多彩な催しを開催します。また、ウニやホヤなど新鮮な魚介の即売も行われます。

●開催場所 久慈市小袖漁港  
 ●問い合わせ ☎0194(52)2111 (久慈市観光交流課)



**つりがね洞**  
 久慈海岸を代表する奇岩。大きなほら穴があり、その天井からつりがね型の岩がぶらさがっていたことから、この呼び名がついた。

スマートフォン・タブレット等で岩手・久慈観光情報サイト「山里海のものごと」を見ることができます。

<http://www.visit-kuji.jp>

山里海のものごと

